

新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）

第1回策定委員会

議事要旨

日時：令和元年7月16日(火) 15:00～17:00

会場：新潟市陸上競技場 2階 第3会議室

《出席委員（五十音順）》

阿部正喜委員、荒木剛委員、飯野由香利委員、五十嵐實委員、石本貴之委員、小沢謙一委員、唐橋浩輔委員、品田泰委員、白井隆委員、菅原晃委員、高橋嘉津夫委員、中村辰男委員、吉川夏樹委員

《欠席委員》和田徹委員

《事務局》長浜裕子環境部長、加藤正樹環境政策課長、若林靖恵地球温暖化対策室長

【次第】

1. 開会
2. 委員長、副委員長の選任について
3. 各分野における策定委員からの発表
4. 新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）の改定について
5. その他
6. 閉会

【議事概要】

1. 開会

- ・長浜裕子環境部長より開会の挨拶が行われた。

2. 委員長、副委員長の選任について

- ・各委員による自己紹介が行われた。
- ・委員及び事務局からの推薦により、委員長に五十嵐實委員が、副委員長に菅原晃委員が選任された。
- ・以降、五十嵐委員長により議事進行が行われた。

3. 各分野における策定委員からの発表

①「地球温暖化と新潟市の気候変化」

- ・新潟地方気象台次長 中村辰男委員

②「気候変動適応策」田んぼダムで水害対策」

- ・新潟大学農学部准教授 吉川夏樹委員

③「私たちの未来を変革するSDGs（持続可能な開発目標）」

- ・新潟NPO協会代表理事 石本貴之委員

- ・本委員会の参考となるよう、3名の委員から各専門分野に関する発表が行われた。

(質疑応答)

①「地球温暖化と新潟市の気候変化」について

飯野委員：温暖化で降水が無い日が増えるというメカニズムを教えてください。

中村委員：気温が上がると空气中に維持できる水分の量が多くなる。つまり、飽和量が増えるということ。溜まるまでに時間がかかるため雨が降る日が少なくなる。新潟市は過去100年で約8日、無降水日が増えたというデータがある。

②「気候変動適応策」田んぼダムで水害対策」について

・質疑応答無し。

③「私たちの未来を変革するSDGs（持続可能な開発目標）」について

中村委員：アウトサイド・インの視点について教えてください。

石本委員：組織内部ではなく、社会的・世界的な視点から何が必要となるのかを元に目標設定して現状とのギャップを解消していくアプローチ。バックキャストリングは、未来から逆算して考える方法。

五十嵐委員長：システム思考についても解説をしたい。世の中、様々なことが複雑に相互に繋がって影響を与え合っており、悪循環となっていることがある。ループ図などを描いて複数の要因を探り、ボトルネックとなる本質的な原因を見極めることである。

4. 新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）の改定について

・計画の改定に関し、加藤正樹環境政策課長より説明が行われた。

(質疑応答)

吉川委員：委員は具体的にどのように議論を進めていけばいいのか。

加藤課長：これから行政計画の関連する施策を洗い出し、これまでの施策と新たな施策を比較しながらお示しするので、ご意見を頂きたい。また、ビジネスでの解決も目指しており、地域の課題をビジネスによってどのように解決していけばいいか具体的な話を頂きたい。

五十嵐委員長：素案に従って議論をしてくのではないか。

加藤課長：バックキャストリングの考え方で、市民ワークショップの開催を考えている。ぜひ、委員の皆様にもご参加いただき、具体的なビジネス展開について考えて頂きたい。例えば、地元の会社がZEHビルダーとしてどのように取り組んでいけばいいかなど。

五十嵐委員長：2回目までは情報提供のような形になると思う。ワークショップはワールドカフェ方式となるのでは。3回目から具体的な話になると考える。

・事務局より、市民ワークショップについての説明が行われた。

石本委員：WSの企画をさせて頂いているが、おしゃれなことや楽しそうなことといった視点で若者をターゲットに具体的な事業ではなく、その先の将来のまちや暮らしの姿を検討していきたい。また、ゲストスピーカーとして委員の方にお話をさせて頂きたい次第である。レゴを用いた手法については、最初から言葉にすることは難しいため、イメージする形を作って、言語化することを考えている。

5. その他

- ・次回は、8月22日（木）10時から開催とする。

6. 閉会

以上